



# みどりの風

令和元年12月2日発行  
校報 第569号  
〔みどりの風 第112号〕  
練馬区立関町北小学校

## 開校60周年記念行事、最終章へ

—子どもたちの思いを新たな一步に—

校長 大野 泰弘

先月11月上旬には、本校の開校60周年にちなんだ行事が続きました。まず、その第1章ともいえる「開校60周年記念集会」。先月お伝えしましたように、各学年がそれぞれ「過去・現在・未来」につながるテーマを決め、調べたり、考えたりしたことを発表しました。特に、最高学年である6年生は書道パフォーマンスを通して、将来に至るまで大切にしたいこと、6年生が願うことを発表しました。「関北小 笑顔でつなげる 未来へと」。昨年度の代表委員会の子どもたちを中心となって決めたスローガンに基づき、体育館のフロア全体を使って、6年生の思いを表現しました。これには下級生からも大きな歓声が上がっていました。



↑ 6年生のパフォーマンス

- これに続く第2章は、11月9日の「開校60周年記念式典・記念祝賀会」でした。記念式典には、5年生と6年生が在校生を代表して参加しましたが、終了後に、記念行事に取り組んできた5年生と6年生の思いを書き記してもらいました。何人かの6年生の文章の一部を紹介します。
- ぼくは、みんなと共に開校60周年記念行事に出られて、とても楽しかったです。60年前の関町北小学校の様子や当時の練馬区のことを深く理解できました。その中で、これからの社会に欠かせないことを学びました。一つめは「笑顔でだれに対してもあいさつをすること」です。二つめは「どんなことにもチャレンジすること」です。ぼくは、これから社会の中心になって、よりよい世界をつかっていきたいと思ひます。
  - 今回、10年に一度しかない記念行事に参加し、関町北小学校が60年も続き、地域の方や子どもたちから愛されていて、とてもすてきな学校だな、と改めて感じました。いつも当たり前のように通っている学校が、昭和の時代からいろいろな人たちの支えがあって、今の関北小があると知り、とてもほこらしいと思ひます。私は、そういう人たちへの感謝を忘れず、だれからも愛される学校として続いていってほしいと思ひます。
  - ぼくは、記念式典を通して、60年前の人々の思いを知り、これからも関町北小学校を大切に、自分たちの力で、よりよい学校にしていこうと強く感じました。次は、70周年記念です。ぼくたちは参加できないけれど、新校舎と共にすばらしい式典にしたいと思います。卒業までの4か月、関町北小学校をほこりに思い、多くの人々の思いを胸に、楽しく学校生活を送りたいです。
  - 私は、関町北小学校が今と同じように、明るく元気で、あいさつをきちんとする学校であってほしいと思ひます。私は、今後、世界の人々を楽しませることが出来る人間になろうと思ひています。また、地域の人たちにも感謝をしています。自分たちが知らないところで学校のために尽くしてくれる人々の大変さも知りました。私も大人になったらボランティアなどを進んでしようと思ひました。
  - ぼくは、60周年というときに6年生であったことをうれしく思ひます。10年に一度の大切な行事に参加させてもらえる、一生に一度かもしれないチャンスなので、行事に真剣に取り組みました。式典は、厳かなふん囲気に包まれていて、きん張感もありました。関町北小学校は、多くの地域の方に見守られ、支えられてきました。だから、次に関町北小を見守るのは、ぼくたちです。大人になったら、学校やこの関北の地を見守りたいです。
  - 式典に来てくださった方だけでなく、他にもいろいろな方が関わっていて、「60周年」がとても大きな行事であったことを実感しました。これから、70周年、80周年と続いていく中で、私自身も関わるようになっていきたいと思います。改築工事もどんどん進んでいき、今の校舎はなくなってしまうと思いますが、新しくできた校舎に今までのすべての思いをこめて、また新たな学校を創りあげていき、もっと子どもたちの笑顔が増えるように、私自身も努力していこうと思ひます。

多くの子どもたちがこのような思いをもつことができたのは、周年行事のために活動して下さった多くの保護者、地域の皆様のお蔭です。子どもたちの思いの数々を受け止めながら、校舎改築工事の中で、次の10年につながる、よりよい学校創りに向けて、新たな一步を踏み出していきたいと思ひています。

そして、周年記念行事の第3章、「60周年子どもフェスティバル」が13日と14日に開かれます。記念集会の内容をもとに発表いたしますので、子どもたちの思いや願いを感じ取っていただければ有難く存じます。